東北６県と整備局が創る
河川・ダム・砂防・海岸事業の新たな連携
「個性の大地」

第３１号（平成２２年　７月）
東北地方整備局河川部
地域河川課　発行

整 備 局 情 報

今回の整備局情報は、７月に開催した２つの現地検討会について報告します。

◆平成２２年度 中小河川流域治水対策現地検討会 開催される　　地域河川課 計画係

７月１５日～１６日に仙台市で開催しました『中小河川流域治水対策現地検討会』について報告します。

近年、局地的豪雨の頻発により浸水被害が多発しており、７月には東北でも福島県郡山市、岩手県奥州市、秋田県秋田市で浸水被害が発生しております。今後も地球温暖化に伴う気候変動により局地的豪雨の激化が懸念されている中、特に中小河川では局地的豪雨の影響を受けやすいことから、従来の築堤、掘削等の河道改修に併せて、流域貯留浸透事業等を実施する重層的な整備が必要となっております。

本現地検討会では、流域貯留浸透事業等、各県市における先例的な取り組み事例について現地を主体とした情報交換等を行い、流域治水対策の推進を図ることを目的として開催しました。

現地視察では、仙台市で実施している溜池を活用した流域貯留浸透事業を視察し、意見交換会では各県の流域治水対策の事例・実施報告を行いました。

現地を見ることにより流貯施設の効果を実感し、また、事業を進める上での課題を各県で共有することにより、事業中の県・市はもちろんのこと、これから流貯事業を含めた流域治水対策を検討する県においても、本現地検討会が流域治水対策を推進するための一助になれればと思います。

昨年度は『中小河川ネック部解消現地検討会』及び『中小河川河口閉塞現地検討会』を開催しましたが、これからも引き続き『体感出来る検討会』を目指して開催していきたいと考えておりますので、ご意見・ご要望等がありましたらどしどしお寄せ下さい。

最後に、今回の現地検討会の開催にあたり仙台市河川課の皆様には、現地案内・会場設営等多大なご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



溜池の現地視察（仙台市）



会議の様子

◆平成２２年度 土砂災害対策現地検討会 開催される　　地域河川課 整備第二係

７月２６日～２７日に宮城県及び秋田県をフィールドとして開催した『土砂災害対策現地検討会』について報告します。

近年、局地的豪雨の頻発による土砂災害の激甚化とともに、地震による大規模な土砂災害が数多く発生しており、東北においても平成２０年６月の岩手・宮城内陸地震により大規模な土砂災害が発生しています。また、東北地方は多くの活火山や活断層、発生確率の高い宮城県沖地震を抱える等、被災リスクの高い地域であることから、土砂災害の予防対策、土砂災害発生後の迅速かつ適切な土砂災害対策が課題となっております。

本現地検討会では、地震による大規模な土砂災害対策等、災害を契機とした土砂災害対策について現地を主体とした情報交換等を行い、適切な土砂災害対策の推進を図ることを目的として開催しました。

１日目は、平成２０年６月１４日に発生した「岩手・宮城内陸地震」により荒砥沢ダム周辺で発生した大規模地すべり、地震により新たに発生した不安定土砂に対応する砂防堰堤を施工中の温湯地区、天然ダムが形成され直轄砂防災害関連緊急事業による応急復旧工事と直轄特定緊急砂防事業による本復旧工事により事業が完了した小川原地区、流路工の整備は完了したものの現在も天然ダムを形成している湯浜地区の現地視察を行い、意見交換会では迫川の直轄事業と補助事業を合わせた全体の土砂収支計画の報告、災害対策事業の課題等についての意見交換を行いました。

２日目は、災害対策事業や災害を契機とした地すべり対策事業についての報告及び意見交換を行い、現地視察では災害を契機とした大規模な地すべり対策事業を行っている谷地地区の視察を行いました。

現地を見ることにより、大規模な地震災害時の初期対応（応急復旧工事）や災害復旧工事の重要性、動き出してからの対応には多大な経費を要する地すべりの予防対策の重要性等を実感し、また、事業を進める上での課題を各県で共有することにより、大規模な土砂災害対策を実施中の県はもちろんのこと、大規模な土砂災害対策や災害申請を経験したことの無い県においても、本現地検討会が土砂災害発生後の迅速かつ適切な土砂災害対策を推進するための一助になれればと思います。

砂防事業については、専門技術者不足を背景とした「人材育成」も大きな課題であり、技術の伝承を目的とした現地検討会を開催したいと考えておりますので、皆様からの要望をお寄せ願います。

最後に、今回の現地検討会の開催にあたり宮城県防災砂防課及び秋田県河川砂防課の皆様には、現地案内等多大なご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



温湯地区での現地視察状況（宮城県栗原市）



谷地地区での現地視察状況（秋田県東成瀬村）

各　県　特　集

今回は、岩手県と秋田県の特集です。

土淵川総合流域防災事業（環境）　～まちづくりと連携して河川環境の回復を～　　青　森　県



弘前市の中心市街地を流れる土淵川は、昭和 50 年代に岩木川に直接放流する放水路の建設を含む抜本的な改修を完了し、治水安全度は飛躍的に向上したものの、自然環境や親水性は大きく損なわれていました。

このため、平成 7 年から 17 年にかけて、野田橋から徒橋までの約 1 km 区間において河川再生事業により整備を行った結果、活発な河川愛護活動が行われるなど、市民に愛される川として生まれ変わりました。

今後は、徒橋から寺沢川合流点までの約 1.1km 区間において、弘前地区かわまちづくり計画の策定者である弘前市と連携しながら、平成 21 年度に着手した本事業により、河川環境の回復を図っていくこととしています。

これにより、市民や観光客が楽しめる水辺空間が創出されることから、中心市街地の活性化にも寄与することが期待されています。



現在の状況（黄昏橋下流）





河川環境整備後のイメージ

海岸漂着物の発生源対策　～雄物川河口部のクリーンアップについて～　　秋 田 県

１．はじめに

本県の海岸は、北端の青森県境から南端の山形県境にかけて広がる全長約２６４ｋｍとなっております。近年の海岸事業は、防災のみならず景観やレクレーション利用などにも資することを考慮し、整備を行っております。



２．クリーンアップに参加

６月６日（日）に「雄物川一斉クリーンアップ」と称して行われた清掃活動には日頃から河川公園等を利用している一般の方やＮＰＯ法人、各種団体などおよそ３００名の方が参加しました。県の河川砂防課職員も１５名が参加し、雄物川河口部の海岸区域を主に清掃してまいりました。

全国的に海岸のゴミが問題となっており、秋田県も例外ではありません。実際に清掃を行ってみると様々なゴミが散乱しており、現状を改めて認識させられました。また、参加者の中には親子連れや地元のスポーツ少年団、年輩の方など幅広い年齢層の方が参加しており、環境活動への関心の高さがうかがえました。清掃活動終了後は河川敷にてカヌー体験やモーターパラグライダー体験などの各種催しによりたくさんの方が、川とふれあっていました。

海岸における主なゴミの種類
- 海水浴や海洋レジャー等で持ち込まれたもの（空き缶、ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ、ﾋﾞﾆｰﾙ類等）
- 河川を経由して海岸に漂着したもの（流木、木くず、産業廃棄物等）
- 外国や船舶からの投棄によるもの（ﾎﾟﾘ容器、薬品ﾋﾞﾝ等）

清掃活動の様子



ゴミの集積状況









３．おわりに

今回の活動を通じて、貴重な海岸環境を守るために海岸管理者としての立場から、環境美化に対する意識向上、行政・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体・住民等の協力体制の充実、河川と海岸の密接な関係などを再認識することができました。

トピックス

◆ 土砂災害防止講演会を青森市で開催（６／２８）　　青 森 県

青森県では毎年６月１日から６月３０日までの「土砂災害防止月間」に関連して各種行事等を実施していますが、その一環として、青森県治水砂防協会との共催により「土砂災害防止講演会」を開催しています。

今年は、６月２８日（月）に(社)全国治水砂防協会理事長・岡本正男氏による「土砂動態とハード対策」と題した講演と（財）砂防・地すべり技術センター砂防部次長・菊井稔宏氏よる「土砂災害に対する警戒避難」と題した講演をいただきました。

土石流・がけ崩れ・地すべりを捉えたビデオが上映されると、会場から驚きの声があがり、出席者はハード・ソフト一体となった土砂災害対策の重要性を再認識していました。

（出席者：国関係者、県・市町村関係者、建設業協会、砂防ボランティア協会 等　計２３３名）





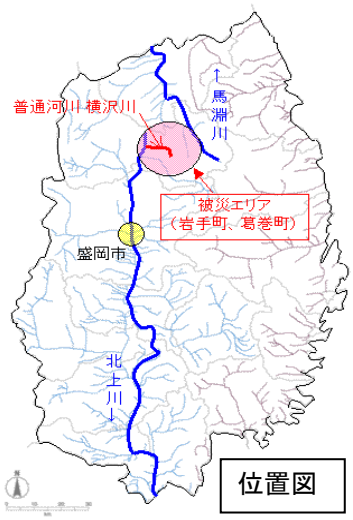
講演会の様子

◆ 局地的な集中豪雨による災害が発生！　　岩 手 県

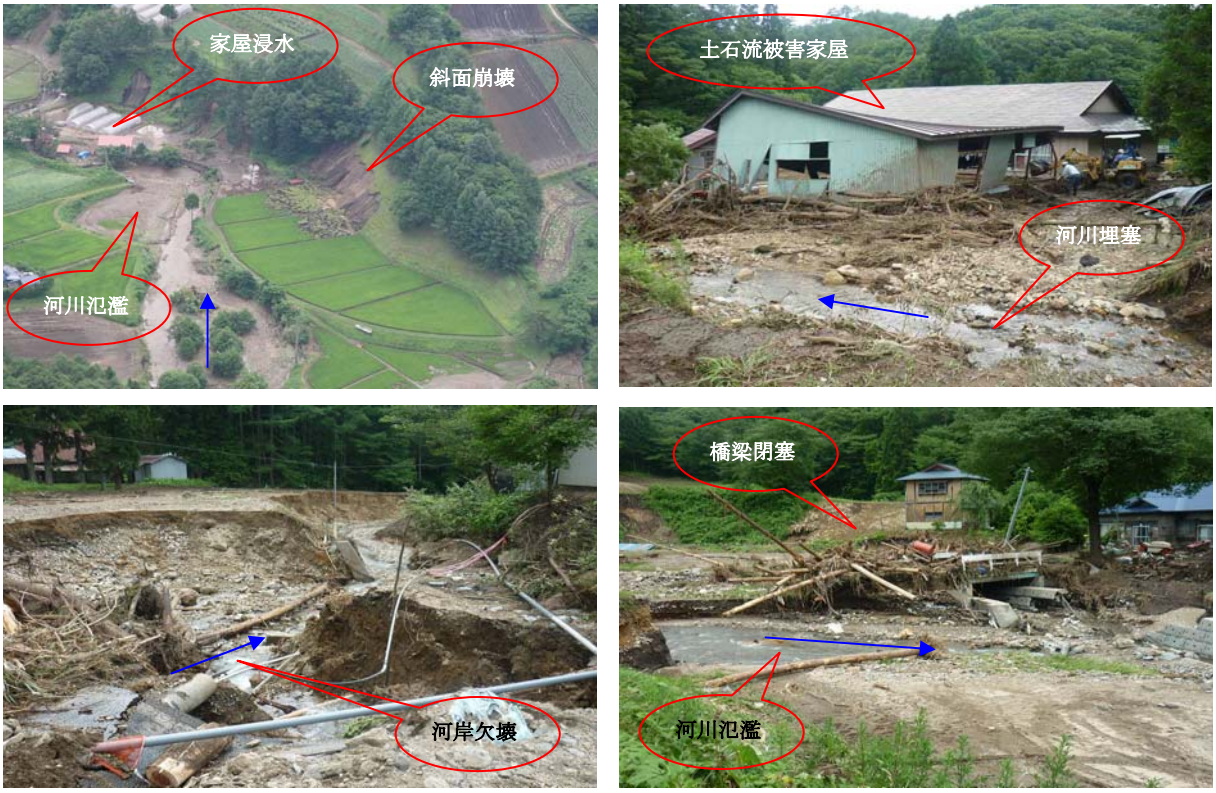
去る７月 17 日、北上川と馬淵川の源流地域である岩手町と葛巻町で、時間雨量 80 ミリと推定される局地的な集中豪雨により洪水や土石流が発生し、北上川本川のほか、支川横沢川などで多数の人家や農地、公共土木施設等が甚大な被害を受けました。

この洪水により、北上川に架かる国道４号の橋梁が冠水し、数時間にわたり通行止めの措置が取られたなど、その被害の影響は多方面に及んだところです。

現在、被害状況の精査と復旧計画の策定を進めているところであり、詳細が固まった後、本紙で報告する予定です。



位置図



普通河川　横沢川の被災状況(2010.07.20 撮影)

◆ 社団法人全国海岸協会　第４１回定期総会（６／１）　　宮 城 県

（社）全国海岸協会第４１回定期総会が、仙台市泉区のイズミティ２１で開催されました。宮城県での開催は、昭和４６年以来、３６年ぶりとなります。

総会では、予算・決算及び事業報告・事業計画等の承認に引き続き、２６名・団体の海岸功労者の表彰を行いました。そのうち、宮城県漁業協同組合石巻湾支所女性部をはじめ４団体から活動状況を発表していただきました。総会終了後には、東北大学大学院工学研究科の田中仁教授より、「河口の水理現象と地球温暖化」と題して基調講演が行われました。

最近の気候変動等の影響により、集中豪雨や暴風雨による被害の増加や、沿岸部における海岸侵食や高潮、津波被害の深刻化が懸念されていますが、宮城県では県土づくりの基盤となる河川や海岸等の整備・保全を重点的・効率的に推進し，被害の防止・軽減に努めてまいります。



海岸功労者表彰



田中仁教授による講演会

◆ 『砂子沢ダム』完成間近！　　秋 田 県

秋田県鹿角郡小坂町に建設中の砂子沢ダムが間もなく完成となります。

多目的ダムとして計画された本ダムは、昭和５４年の予備計画調査着手以来、様々な困難を乗り越え、今年９月に行われる竣工式をもって完成予定となっております。

「地域に愛されるダム」をモットーに建設中はホームページでの情報提供や地元小坂町で開かれたイベントでの広報館の出店などにより、たくさんの方々にダムを身近な存在として受け入れていただいた気がします。今後はダム本来の機能を発揮させ、より多くの方に愛されるダムを目指していきたいと思います。



試験湛水前写真



サーチャージ越流写真

◆ 「最上小国川流域の治水と活性化を考える懇談会」
第２回環境、防災、観光、農林水産部会の４部会開催　　山 形 県

山形県では最上小国川流域の活性化とその礎となる治水対策について検討する「最上小国川流域の治水と活性化を考える懇談会」を平成２２年３月に設置しました。また、懇談会の下部組織として防災・環境・観光・農林水産をテーマに具体的に検討する４つの部会を設置しています。

第１回目は平成２２年３月２９日に懇談会と４部会合同の会議を開催し、地域の現状、洪水被害と対策の検討経緯等について説明の後、意見交換を行いました。

今回は６月２２日から３０日にかけて２回目の４部会を開催し、最上小国川流域の現地調査を行った後、それぞれの視点から治水と地域活性化に関する意見をいただきました。

今後は懇談会、部会の意見について今年末を目途に集約し、地域の実情にあった治水対策の検討や地域振興策を実施する際の方策に生かしていきたいと考えております。



部会開催状況（農林水産部会）



部会委員による現地視察（観光部会）

◆ 水災害対策講習会を郡山市で開催（６／９）　　福 島 県

福島県では、重点推進分野事業として「集中豪雨から命を守るプロジェクト事業」を実施しております。事業の一環として昨年度各方部で設立した水災害対策協議会の活動を推進し、地域防災力向上や地域と連携した減災体制の構築について理解を深めることを目的に、福島県農業総合センター（郡山市日和田町）で「水災害対策講習会」を開催しました。

県内各方部から県・市町村・消防本部等の防災担当職員１０７人が参加し、講演として、福島地方気象台吉田予報官による「大雨や洪水などの気象警報・注意報の改善について」、NPO 法人ほうぼうネット山崎事務局長による「山口県を襲った土砂災害からの教訓」、山口大学理工学研究科瀧本准教授による「流域・地域の防災力向上のための考え方」を実施しました。さらにグループワークとして、T-DIG（地域防災図上訓練）を受講者全員で実施しました。


講演受講状況


T-DIG 実施状況

整備局の動き　等

【連絡事項】

河川局所管補助事業完了検査の実施について【水政課・地域河川課】

平成 22 年度河川局所管事業完了検査の検査日程が下記のとおり決まりましたのでお知らせします。

青森県：9 月 14 日（火）～17 日（金）　　**秋田県：10 月 26 日（火）～29 日（金）**
岩手県：11 月 9 日（火）～12 日（金）　　**山形県：10 月 19 日（火）～22 日（金）**
宮城県：8 月 24 日（火）～27 日（金）　　**福島県：10 月 12 日（火）～15 日（金）**

編集後記

連日の猛暑により水分（アルコール？）補給が多いこの頃です(^ｏ^)。　さて、社会資本整備総合計画の集中受付期間においては、ご協力・対応をいただき、ありがとうございました。総合整備計画の正式な提出に向けて一歩前進したところですが、本交付金については不明確な事項も多くご迷惑をお掛けしていることと思います。地域河川課では、皆様に一番身近な組織として質問・ご要望には精一杯対応させていただきますので、気兼ねなく相談していただければと思います。



わんこ紹介：２頭目はチワワのクー（♂３歳）です。３頭いるチワワの中で体重は一番重く２．５kg ありますが、鼻が詰まってチワワらしい顔と表情がとてもカワイイと思っています(^^;)。　（ヒラダテ）